

スペイン語の2つの接続法過去について¹⁾

Sobre los dos pretéritos de subjuntivo en español

福寫教隆

Noritaka FUKUSHIMA

1. ロマンズ諸語の叙法

スペイン語（イスパニア語）の叙法の特徴の1つとして、接続法過去に2つの形態があることがあげられる。以下では、これらを *ra* 形, *se* 形と呼び、両者の間に意味機能の差が見いだせるか否かについて検討する。

本論に入る前に、スペイン語の叙法の特徴を、他のロマンス語と比較してみよう。まず用法については、フランス語、イタリア語、ポルトガル語とは次のような違いがあることが指摘されている。基本的には共通点が多いものの、単文、名詞節、関係節、副詞節の全てにわたって使用規則の違いが見られる。

(表1) ロマンズ諸語の叙法の用法

	スペイン語		フランス語		イタリア語		ポルトガル語	
	ind	subj	ind	subj	ind	subj	ind	subj
<i>tal vez</i>	✓	✓	✓	×	✓	×	×	✓
<i>ser probable</i>	×	✓	✓f	✓	×	✓	×	✓
<i>esperar</i>	✓f	✓	✓f	✓	✓f	✓	×	✓
<i>creer (af)</i>	✓	×	✓	×	✓	✓	✓	×
<i>el último que</i>	×f	✓	✓f	×	✓f	×	×f	✓
<i>cuando</i>	×f	✓	✓f	×	✓f	×	×f	✓
<i>si</i>	×i	✓i	✓i	×	✓i	✓i	×i	✓i

(ind: 直説法, subj: 接続法。 *tal vez*: 「恐らく」を表す副詞を冠した単文。 *ser probable*: 蓋然性を表す形容詞に導かれる名詞節。 *esperar*: 「期待する；待つ」を表す動詞に導かれる名詞節。 *creer (af)*: 「思う、信じる」を表す動詞の肯定形に導かれる名詞節。 *el último que*: 「最後の～」のような限定を伴う先行詞に導かれる関係節。 *si*: 「もし～ならば」を表す語に導かれる条件節。 ✓: 文法的。 ×: 非文法的。 ✓f: 未来形の使用は文法的。 ×f: 未来形の使用は非文法的。 ✓i: 反実仮

想用法の不完了過去形の使用は文法的。×i: 反実仮想用法の不完了過去形の使用は非文法的)
(Schmideley (coord.) (2001), 237-242 による)

2. ロマンズ諸語の中での ra 形, se 形の位置づけ

次にスペイン語の接続法過去 ra 形と se 形が他のロマンス語のどの形に対応するかを確認しておこう。amar (愛する) を例にとれば, ra 形 *amara* はラテン語の直説法大過去 *amāveram* に端を発し, se 形 *amase* は接続法大過去 *amāvisssem* に由来する。ロマンス語はこの両形から以下のような形を生んだ。

(表2) ラテン語 *amāveram* と *amāvisssem* から生まれたロマンス諸語の形式

	古典ラテン語の直説法大過去	古典ラテン語の接続法大過去
古典ラテン語	<i>amāveram</i>	<i>amāvisssem</i>
俗ラテン語	<i>amāram</i>	<i>amāssem</i>
スペイン語	<i>amara</i> (接続法過去)	<i>amase</i> (接続法過去)
ガリシア語	<i>amara</i> (直説法大過去)	<i>amase</i> (接続法過去)
アストゥリアス語	<i>amara</i> (直説法大過去・接続法過去)	消失
アラゴン語	消失	<i>amase</i> (接続法過去)
カタロニア語	消失	<i>amés</i> (接続法過去)
ポルトガル語	<i>amara</i> (直説法大過去)	<i>amasse</i> (接続法過去)
フランス語	消失	<i>amasse</i> (接続法過去)
イタリア語	消失	<i>amassi</i> (接続法過去)
ルーマニア語	消失	<i>amasem</i> (直説法大過去)
レトロマン語	消失	<i>amass</i> (条件法現在)

(アストゥリアス語については Academia de la Llingua Asturiana (1999), アラゴン語については Nagore (1977)を参照した。)

このように, ラテン語の直説法大過去は, その機能が保持された言語や, 引き継がれず消失した言語がある。また, 接続法大過去には, 接続法過去の機能を与えて保持している言語が多い。この中であってスペイン語は, その両者を残し, かつ等しく接続法過去の機能をになわしている点で, きわめて特異であると言える。

中世スペイン語では ra 形は直説法大過去として機能していたが, 15~16 世紀に接続法過去へ

と移行し、早くから接続法過去であった *se* 形と並立の状態になった。現在では *ra* 形のほうが使用頻度が高く、特にラテンアメリカ・スペイン語でこの傾向が著しい。²⁾ また、*ra* 形のみが使用可能な用法が存在する。次の例を参照。(0a, b)では直説法過去未来も用いることができる。

- (0) a. 婉曲表現 : {*Quisiera* / **Quisiese* / *Querría*} *hacerlo*. (それをしたいのだが。)
b. 帰結節 : *Si* {*viniera* / *viniese*}, *la* {*recibiera* / **recibiese* / *recibiría*}. (もし彼女が来るなら、彼女を受け入れるのだが。)(*条件節は *ra* 形, *se* 形ともに可)
c. 直説法過去・大過去の用法 : *Después de que* {*llegara* / **llegase*}. *fui a verla*. (私は到着した後、彼女に会いに行った。)
d. 一定の慣用句 : ¡{*Acabáramos* / **Acabásemos*!}! (やっと分かった!)

3. *ra* 形と *se* 形の機能についての諸説

現代スペイン語における *ra* 形と *se* 形の機能については、相反する2つの見解が認められる。第1は、「上記の(0)のような場合を除いて、両者の機能には差はなく、自由交替形とみなせる」というものであり、Lenz (1920), Gili Gaya (1951), Fernández Álvarez (1987), Real Academia Española et al. (2011)など、多くの学者が支持している。例えば Fernández Álvarez (1984: 133)は、「*las formas -ra y -se son totalmente intercambiables sin cambio de significado.*» (*ra* 形と *se* 形は意味の差を生じることなく完全に交替可能である)と断定している。

第2は、「両者には一定の意味の違いがある」とする立場で, Criado de Val (1954), Bolinger (1956), Pottier (1971), Lamíquiz (1971), 中岡 (1981), Hernández Alonso (1995) などがこれを主張している。その中で Bolinger (1956)は多くの具体例に基づく詳細な考察を行った結果, Criado de Val, Hernández Alonso らの主張と近似した見解に至っており、注目に値する。Bolinger はまず「*they (=ra* 形と *se* 形。福寫注) *are not in free variation*» (p.282) と述べた上で、両者の違いを「*-se expresses "remoteness, detachment, hypothesis, lack of interest, vagueness, greater unlikelihood"*», «*-ra gives "shaper focus"*» (p.277) のように説明する。Bolinger は Laudelino Moreno というスペイン人 (Castilla 出身) に接続法過去を用いた15の文を示し、*ra* 形・*se* 形のどちらがいいか、またそれぞれを用いた文がどのような意味を表すかを尋ねることによって、上記の結論を導いたのである。

果たして多くの研究者が主張するように、*ra* 形と *se* 形には意味の差がないのだろうか。それとも Bolinger らが説いたような何らかの使い分けが、現代スペイン語で行われているのだろうか。

4. *ra* 形と *se* 形の意味機能の違いに関する調査

この疑問を解くために、Bolinger (1956)が用いた15の文を用いてインフォーマント調査を実施

した。被験者はスペイン人 17 人 (男性 9 人, 女性 8 人), ラテンアメリカ人 10 人 (男性 6 人, 女性 4 人) の計 27 人で, 2015 年 7~12 月に電子メールにより調査した。被験者には, ① 各文に ra 形, se 形が使えるかの判断を求め, ② Bolinger のインフォーマント Moreno の意見に同意するか否かを問い, ③ もしコメントがあれば書き添えるよう指示した。①, ②は必須, ③は任意の質問項目である。以下に、調査に用いた文と Moreno のコメントを記す。

(1) Si yo {A. fuera / B. fuese} usted en este momento, no lo haría.

(今, 私があなたなら, そんなことはしないだろう。)(条件節)

Moreno 「BはAより押しつける感じが薄い。Aは推奨。Bは助言」

(2) Lástima que está lloviendo; si {A. hubiera / B. hubiese} sol, podríamos salir.

(雨が降っているとは残念だ。天気が良ければ出かけられるのに。)(名詞節に準ずる節)

Moreno 「Bの発話者はたとえ晴天でも家にいるほうを好んでいる。出かけないで済む口実ができて喜んでいる」

(3) Si me {A. sintiera / B. sintiese} mejor, me levantaría.

(元気になったら, 起き上がるのだが。)(条件節)

Moreno 「Bの発話者は、実はあまり起床する気がない。Aの発話者は起床したがって、やがて回復すると信じている」

(4) El médico me dijo que si me {A. sintiera / B. sintiese} mejor podría levantarme.

(「あなたは元気になったら起き上がれますよ」と医者には私に言った。)(条件節)

Moreno 「医者がBを発話したとすれば、患者の心理を知らなさすぎる。或いは患者が起床しないですむ口実を求めている」

(5) Si yo {A. pudiera / B. pudiese} hacerle ese favor, lo haría.

(その頼みごとをきいてあげられるものなら, してあげるのだが。)(条件節)

Moreno 「誰かから依頼を受けたとき, 初回はAを用いて, できるだけ期待に応じてあげたいという意味を示す。依頼が度重なるとうとましく思い, 可能性を遠ざけるためにBを用いる」

(6) Si {A. estuviera / B. estuviese} aquí mañana, ¿qué haríamos?

(もし彼が明日ここにいるとしたら, 私たちはどうしようか?)(条件節)

Moreno 「Aは彼が明日ここにいる可能性が比較的高い。Bは低い」

(7) Siento que no {A. hayas estado / B. estuvieras / C. estuvieses} aquí anoche.

(君が昨夜ここにいなかったのは残念だ。)(名詞節)

Moreno 「A (現在完了形) の話者は、聞き手がなぜ昨夜いなかったのかを不思議がっている」

る。Bの話者は、聞き手が昨夜来られないこと・その理由を事前に知っていた。Cの話者は、もはやこの件にあまり関心がない」

- (8) En caso de que lo {A. hiciera / B. hiciese}, ¿qué diría usted?

(仮に私がそうすれば, あなたはどう言いますか?) (名詞修飾節)

Moreno 「BはAより実現性が低い」

- (9) Prepáreles la comida en caso de que {A. vengan / B. vinieran / C. viniesen}.

(もし彼らが来たら, ごはんを作ってあげなさい) (名詞修飾節)

Moreno 「A (現在形) は実現性が最も高い。Bがそれに次ぎ, Cは最も低い」

- (10) Bien, vamos a suponer que usted se {A. llamara / B. llamase} Gretchen Schraft.

(では, あなたがグレートヒエン・シュラフトという名前だとしよう。) (名詞節)

Moreno 「Aは, できればそうあって欲しいという仮定。Bは単なる仮定」

- (11) Vamos a suponer que usted {A. fuera / B. fuese} ese criminal.

(あなたがその犯罪者だとしよう。) (名詞節)

Moreno 「Aは聞き手に対する侮辱と受け取られかねない。Bは無害な仮定」

- (12) No creo que lo {A. sea / B. fuera / C. fuese}.

(私はそうだ (った)とは思わない。) (名詞節)

Moreno 「A (現在形) の発話者はそう言い切るだけの根拠を持っている。Bは単なる意見の表明。Cの発話者は自分の意見にあまり自信がない」

- (13) Ojalá que {A. pudiera / B. pudiese}. Casi creo que puede.

(彼がそうできればいいのだが。できそうに思えるが。) (単文)

Moreno 「Bは2つの文が矛盾している。前の文は実現性の低さを述べ, 後の文はその反対のことを述べているから」

- (14) En tal caso, ¿qué harías con los recursos que {A. tengas / B. tuvieras / C. tuvieses}?

(そんなときは, 君は手に入れた手段を使ってどうしますか?) (関係節)

Moreno 「A (現在形) は最も可能性が高い。Bがそれより劣り, Cはほとんど実現の見込みがない」

- (15) ¡Quien lo {A. supiera / B. supiese} hacer!

((彼・私に) それができればなあ!) (単文)

Moerno 「3人称と解釈するなら, Bの方が, そういうことができる人がいる可能性が低い。

1人称ととれば, Bの方が実現の可能性が低い」

調査の結果は, 次のとおりであった。

(表3) ra形, se形の選択および元のインフォーマントの意見の受容状況

文	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	
1. ES m [0]	rs	r	r	r	r	r	r	r	r	r	rs	r	r	r	r	
2. ES m [0]	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	xx	rs	rs	rs	
3. ES m [0]	s	rS	rS	rS	rs	rs	rs	rs	r	rs	rs	rs	rs	rs	rs	
4. ES m [3]	rs	rs	rs	s	rs	rs	xx	rs	rs	rs	rs	xx	xx	Rs	rS	
5. ES m [0]	r	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	xx	s	rs	rs
6. ES m [5]	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	xx	rs	r	
7. ES m [0]	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	
8. ES m [4]	rs	Rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	xx	rs	xx	rs	rs	Rs	
9. ES m [6]	Rs	Rs	rs	Rs	Rs	Rs	Rs	rs	Rs	rs	rs	xx	rs	Rs	rs	
10. ES f [0]	rS	rS	rS	rS	rS	rS	rs	rs	rs	rs	rs	xx	rs	rs	rs	
11. ES f [1]	r	r	rs	rs	rs	r	rs	r	rs	rs	r	xx	r	s	r	
12. ES f [0]	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	xx	rs	rs	xx	rs	rs	rs	
13. ES f [3]	rs	xx	rs	rs	rs	rs	Rs	rs	Rs	rs	rs	rs	rs	rs	Rs	
14. ES f [0]	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	xx	rs	rs	
15. ES f [0]	rS	rS	rS	rS	rS	rS	rS	rS	rS	rS	rS	xx	rS	rS	rS	
16. ES f [0]	rs	rS	rS	rs	rs	rs	rS	rS	xx	rS	Rs	xx	rS	rS	rS	
17. ES f [2]	Rs	Rs	Rs	rS	Rs	rs	Rs	Rs	xx	Rs	Rs	xx	xx	Rs	Rs	
18. MX m [8]	Rs	rs	s	r	r	Rs	Rs	Rs	rs	r	Rs	r	Rs	r	Rs	
19. MX m [6]	r	r	Rs	rS	Rs	r	r	r	xx	Rs	Rs	Rs	r	rs	r	
20. MX m [1]	r	s	s	s	Rs	r	xx	r	xx	r	s	xx	r	s	s	
21. MX f [2]	Rs	r	Rs	Rs	Rs	r	xx	Rs	xx	r	Rs	xx	r	Rs	xx	
22. GT m [4]	Rs	Rs	Rs	Rs	Rs	Rs	Rs	Rs	rs	rs	rs	rs	rs	Rs	rS	
23. CO m [0]	r	xx	r	xx	r	r	xx	r	xx	xx	xx	xx	r	r	r	
24. VE f [0]	Rs	Rs	Rs	xx	Rs	Rs	Rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	Rs	
25. PE f [1]	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	rs	xx	xx	xx	xx	rs	r	
26. CL f [0]	r	r	r	r	r	s	rs	r	xx	xx	xx	xx	rs	s	r	
27. AR m [2]	s	s	rs	r	rs	s	r	rs	xx	s	s	r	r	rs	s	

amara ≠ amase 2 2 2 1 4 8 1 7 7 3 3 1 2 3 2

(ES: スペイン, MX: メキシコ, GT: グアテマラ, CO: コロンビア, VE: ベネズエラ, PE: ペルー, CL: チリ, AR: アルゼンチン. m: 男性, f: 女性. [] 内の数: Moreno の意見に同意の件数. r: ra 形, s: se 形, xx: 「ra 形・se 形ともに不可」, R: 「ra 形が好ましい」, S: 「se 形が好ましい」, □: 「Moreno の意見に同意」. *amara ≠ amase*: ra 形・se 形の意味の違いを認める被験者数. (7), (9), (12), (14)では接続法現在, 同現在完了の調査も行ったが, 本表では結果を略す.)

(表4) 任意コメント (抄)

2. ESm 「ra 形, se 形の順で習うのが影響しているかもしれない」
 5. ESm 「両者に違いはないはずだが, 言われてみると違いがあるような気もする」
 6. ESm 「ra 形のほうが蓋然性が高い。Moreno の意見は同意できる点が多い」
 7. ESm 「私は両者を区別しない」
 8. ESm 「どちらも同じ。se 形のほうがやや改まった感じ」
 9. ESf 「Moreno の意見には同意できる点もある」
 10. ESf 「どちらも同じ文脈で使える。se 形は口語的, ra 形は改まった感じ」
 13. ESf 「se 形のほうが文学的で美しい。ra 形のほうが蓋然性が高い」
 14. ESf 「違いはない。Moreno の言う意味の差は音調などによるものだ」
 15. ESf 「私は se 形を多用。Moreno の意見は理解できない」
 16. ESf 「私はどちらも使う。se 形のほうが多い。意味の違いはない。どちらを使うかは発音上の理由による」
 17. MXm 「メキシコでは(11)は ra 形が普通。聞き手に対する侮辱とは受け取られない」
 20. MXm 「(5)は Moreno の意見に完全に同意。se 形を使うと「やりたくない」ことの言い訳に聞こえる」
 22. GUm 「違いはない。グアテマラでは古いスペイン語をまだ使っている」
 23. COm 「(5)はコロンビアでは ra 形が普通。se 形はぎこちない」
 24. Vef 「(9), (15)の ra 形と se 形は, 蓋然性に差はない」
 25. Pef 「ペルーでは ra 形を多用。Moreno の感じる差は感じられない」
 26. CLf 「どちらも同じ」
 27. ARm 「Moreno の意見に同意できる点が多い」
-

この結果においては、以下の諸点が注目される。第1に、被験者27人中14人は一部の文について、ra形とse形に意味の差を認めている。うち7人はスペイン人、7人はラテンアメリカ人である。その多くはMorenoの判断に同意している。一方、13人は意味の差を全く認めない。

第2に文(6)(Si...), (8)(en caso de que...), (9)(en caso de que...)において、ra形とse形の意味の差を認める被験者が比較的多い(27人中、各8人、7人、7人)。これらの被験者は、「ra形のほうがse形よりも蓋然性が高いことを表す」と判断する。

第3に、ra形については「蓋然性が高い」と判断する被験者がいる。また、「ra形のほうが文語的」と感じる人と、その逆の人がいる。

第4に、文(12)(No creo que...)は16人がra形、se形ともに不可と回答している。接続法過去に「過去」の時制機能を求める用例の許容度は低いようである。

5. 結論

小規模で不完全な調査ではあるが、少なくとも現代スペイン語のra形、se形の機能についての傾向を読み取ることができ、冒頭で提起した疑問への1つの解答が得られたのではないかと考える。その傾向は、次のようにまとめられる。

即ち、現代スペイン語においては、もっぱらra形を使い、se形をほとんど使用しない話者がいる。また、両形式とも使用するが、その間に意味の差を認めない話者がいる。しかし一方で、スペインのみならずラテンアメリカでも、無視できない数の話者が、ra形とse形の間に意味の差を認めている。彼らの多くは「ra形はse形に比べて蓋然性が高く明確な事柄を表す」と判断する。これはBolinger(1956)の説明に合致する。従って、現代スペイン語において「接続法過去ra形とse形は、一部の用法を除いて完全な自由交替をする」と断定することは、言語事実を正確に反映しているとは言えない。

ただし、ra形とse形の意味の違いは、それを認める話者においても、本質的な対立というよりは「蓋然性の大小」といった「度合の差」と見るべきものであり、非常に不安定である。即ち、現代スペイン語では、接続法過去という項目に2つの形態が充てられ、かつそれらが明確な対立をなさないという、コストの高い時制体系が保たれているが、恐らくはra形に一元化する方向に推移するものと見られる。私たちは、この興味深い進行中の変化と同時代にいるのである。

注

- 1) 本稿は、セルバンテス文化センター東京で開かれた第2回 Congreso del Español y la Cultura Hispánica en Japónにおいて2015年10月3日に行った Pasado, presente y futuro del subjuntivo en español と題する口頭発表、および九州大学で開催された第5回日本ロマンス語学会において2016年5月21日に行った、本稿と

同じ題名の口頭発表に基づいている。前者の内容は、拙稿（2015）および拙稿（2016）で公にしている。本稿は、これらにロマンス諸語の中での位置づけという点を加筆した日本語版である。

2) Antonio Ruiz Tinoco 上智大学教授が2015年10月3日に行った調査によると、同日スペイン語圏で発信されたツイッターの中に decir（言う）の接続法過去1・3人称単数形 dijera および dijese は、それぞれ1,554回と87回使用されていたという。後者の国別内訳は、スペイン82、メキシコ2、コスタリカ1、アルゼンチン2である。少なくともツイッターという言語媒体では、ra形の使用が特にラテンアメリカで著しいことがうかがえる。

引用文献

- ACADEMIA DE LA LINGUA ASTURIANA (1998, 1999²). *Gramática de la llingua asturiana*, Uviéu (Oviedo): Academia de la Llingua Asturiana.
- BOLINGER, Dwight (1956; 1991) «The Subjunctive –ra and –se: “Free Variation”?», (1956) *Hispania* 39: 345-349. (1991) In *Essays on Spanish: Words and Grammar*, Newark: Juan de la Cuesta, 274-282.
- CRIBADO DE VAL, Manuel (1954; 1962). *Fisonomía del idioma español*, Madrid: Aguilar.
- FERNÁNDEZ ÁLVAREZ, Jesús (1987). *El subjuntivo*, Madrid: Edi-6.
- FUKUSHIMA, Noritaka (2015) «Pasado, presente y futuro del subjuntivo en español», *Actas del II Congreso Internacional sobre el español y la cultura hispánica en Japón*, Tokio: Instituto Cervantes de Tokio, 45-61 (http://cvc.cervantes.es/ensenanza/biblioteca_ele/publicaciones centros/tokio 2015.htm).
- FUKUSHIMA, Noritaka (2016). «Amara y amase», 福嶋教隆・他『現代スペインの諸言語の形態論についての対比的な研究』, 神戸市外国語大学: 科研報告書, 54-161.
- GILI GAYA, Samuel (1951). *Curso superior de sintaxis española*, Barcelona: Bibliograf.
- HERNÁNDEZ ALONSO, César (1995). *Nueva sintaxis de la lengua española*, Salamanca: Colegio de España.
- LAMÍQUIZ, Vidal (1971). «Cantara y cantase», *Revista de Filología Española*, 54: 1-7.
- LENZ, Rodolfo (1920, 1925²). *La oración y sus partes*, Madrid: Centro de Estudios Históricos.
- NAGORE, Francho (1977). *Gramática de la lengua aragonesa*, Zaragoza: Librería General.
- 中岡省治 (1981). 「接続法過去 -se 形と -ra 形についての一考察」, *Estudios Hispánicos*, 7: 43-58.
- POTTIER, Bernard (1969) *Grammaire d'espagnol*, Paris: Presses Universitaires de France.
- REAL ACADEMIA ESPAÑOLA y ASOCIACIÓN DE ACADEMIAS DE LA LENGUA ESPAÑOLA (2011). *Nueva gramática de la lengua española*, Barcelona: Espasa Libros.
- SCHMIDELY, Jack (coord.) (2001). *De una a cuatro lenguas. Del español al portugués, al italiano y al francés*, Madrid: Arco / Libros.